

平成14年度第2回企画展

新収蔵品展

～みやしろ回顧録～



平成14年7月20日（土）～9月29日（日）

宮代町郷土資料館

開催にあたって

私たちの生活は、近年、目まぐるしいまでの速さで変化しております。

まだつい最近まで日常的に使用していたものが、数年後にはもう見かけなくなってしまう・・・。そういった経験は皆様にもあるのではないのでしょうか。

今回の展示は「新収蔵品展～みやしろ回顧録～」と題し、平成13年度までに資料館に寄贈されたものを4つのコーナーにわけて展示いたしました。

この展示をごらんいただき、先人達の暮らしを通じて私たちの暮らしを見つめなおすきっかけになれば幸いです。

おわりに、資料の寄贈・寄託いただいたみなさま、また、調査にご協力いただいた方々に対しまして心より感謝申し上げます。

平成14年7月
宮代町郷土資料館

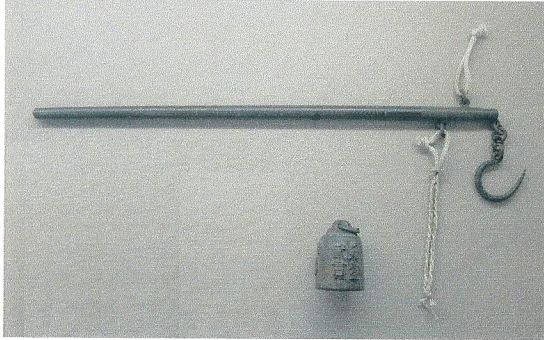
凡 例

1. 本書は、平成14年7月20日から9月29日にかけて開催する、宮代町郷土資料館企画展「新収蔵品展～みやしろ回顧録～」の展示解説図録です。
2. 本展示の企画構成並びに本書の執筆・写真撮影及び編集は、横内美穂が行いました。



日常の生活用品

1950年代から60年代にかけて日本が経験した「高度経済成長」は、暮らしの中にさまざまな機器を急激に登場、普及させ、私たちの生活様式を大きく変化させました。



棹ばかり・錘（野本惣太郎氏寄贈）

kg(キログラム)、g(グラム)といった重さの単位が使われ出す前から使用されていた形のはかりです。錘には「弐貫」と書かれています。棹ばかりにも錘にも同じ記号「埼玉ら八四三二」が刻まれています。また棹の側面には「五百匁」「ニメ」の文字が見え、この文字の間に等間隔に点線が打たれていて、物の重さを量る目盛りに使いました。



ベーゴマ（森山清氏寄贈）

ベーゴマは、男の子に人気の遊び道具でした。力道（力道山）や王、金田、大下などのように、当時、人気のあったプロレスラーや野球選手などの名前が入ったものが流行していました。

薬（小河原進氏寄贈）



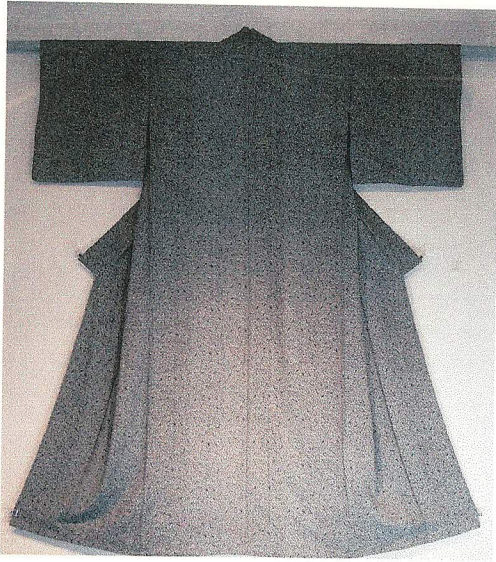
工業用ミシン

（八木橋一郎氏寄贈）

まだ結婚した女性が出社に出て働くことが一般的でなかった頃は、「内職」と言い、主婦業の合間に自宅で作業等の仕事を請け負って、家計を助けていました。

工業用ミシンは一般的な家庭用のミシンに比べ丈夫で、縫製に必要な作業を行うのに適していました。





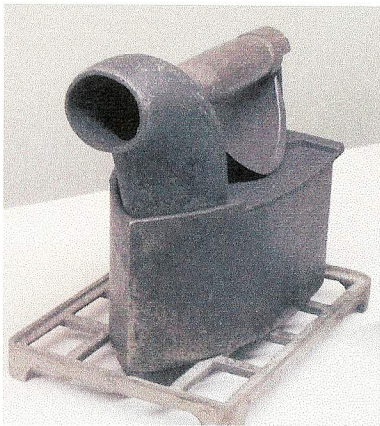
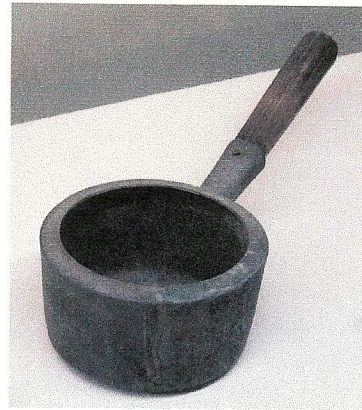
着物（女物）（金子和生氏寄贈）

着物（男物）（小河原進氏寄贈）



ヒノシ（矢部豊氏寄贈）

アイロンが入ってくるまでは、日本においてはこのヒノシやコテを使って着物のしわなどを伸ばしていました。ヒノシもコテも炭火で暖めて使用しました。



炭入れ式アイロン（野本伊勢松氏寄贈）

明治時代になり、イギリスなどから輸入されたものが元になって、使われるようになりました。使う前にその準備として炭に火を起こすことから始めなければならず、また大変重たいので、このアイロンでのしわ伸ばしは大変だったと思われます。

電気式アイロン（白川由利子氏寄贈）

日本に初めて電気式アイロンが登場したのは、大正3年（1914）のことで、輸入品だったこともあり高価で一般家庭にはまだ普及していませんでした。

昭和2年（1927）、自動車メーカー、フォードが行っていた大量生産にヒントを得て、品質を落とさず手ごろな価格の電気式アイロンを生産できるようになり、一般家庭にも普及するようになりました。



「戦争」という記憶

昭和20年8月15日、太平洋戦争が終結しましたが、戦争中、出兵された方も、「銃後を守る」として日々を過ごされた方も忘れがたい様々な記憶が残されていることと思います。

軍艦「陸奥」 関係資料

展示しているプレートは、昭和18年6月8日、原因不明の爆発により瀬戸内海の柱島付近に沈没した軍艦「陸奥」の、引き上げられた艦体の一部を使って作成されたものです。

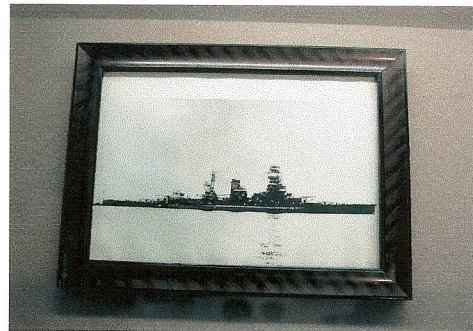
この資料を寄贈して下さった鈴木さんは、当時「陸奥」の乗組員として乗船されていて、この爆沈に遭遇されました。乗員1474名のうち、わずか353名のみが救助され、1121名の尊い人命が失われました。

沈没から28年を経た昭和45年から、艦体の引き上げが開始されました。



軍艦陸奥 サルベージ（引揚げ）記念プレート（鈴木良作氏寄贈）

軍艦陸奥
五十年祭記念誌
(鈴木良作氏寄贈)



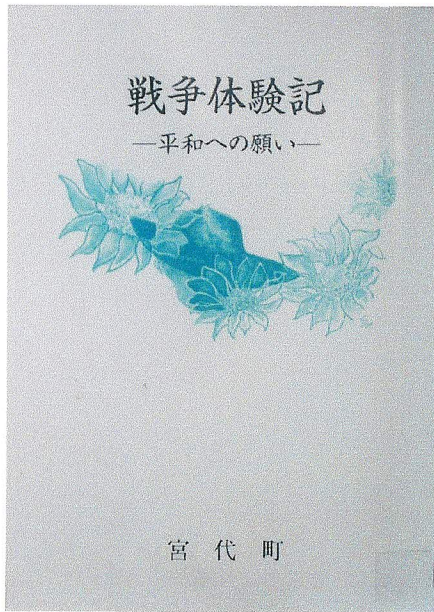
軍艦陸奥 写真（鈴木良作氏寄贈）



国民服

（関根勤氏寄贈）

太平洋戦争中は様々な物資が統制を受けたため、衣類や食べ物などの物資が不足しました。ボタンが取れてなくなっても、別のボタンをつけて、大切に着ていた様子がうかがえます。



戦争体験記（参考図書）

宮代町内に住んでいらっしゃる方々から寄せられた、戦争の体験記をまとめた本です。太平洋戦争終結後、57年が過ぎようとしています。今なお、世界のどこかでは戦争が続いています。

多くの犠牲のもとに今の平和な日本があることを忘れないためにも、ぜひ読んでいただきたい一冊です。

ハレの日を迎えて（花嫁となった日）

現在では、自宅で結婚式を行う方はほとんどいませんが、昭和30年代の頃までは、自宅で行うのが一般的でした。

花嫁衣裳を新調し、盃などの酒器や祝いのお膳などを用意し、嫁入り道具を整えて、ハレの舞台である祝いの日を迎えました。



白無垢（中村清子氏寄贈）

寄贈下さった中村さんが昭和30年代に結婚された時の花嫁衣装です。銀糸で孔雀を刺繍してあります。

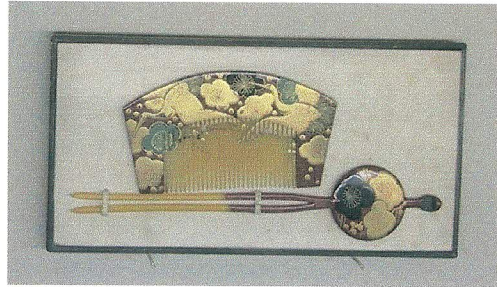


箱セコ
(中村忠男氏寄贈)



祝い樽（ツノダル）（成田良夫氏寄贈）

朱塗りの樽は、お祝い事に使用されました。下半分が黒漆塗になっているのは珍しいそうです。



髪かざり
（渡辺恵司氏寄贈）



三三九度の杯
（中村多計志氏寄贈）



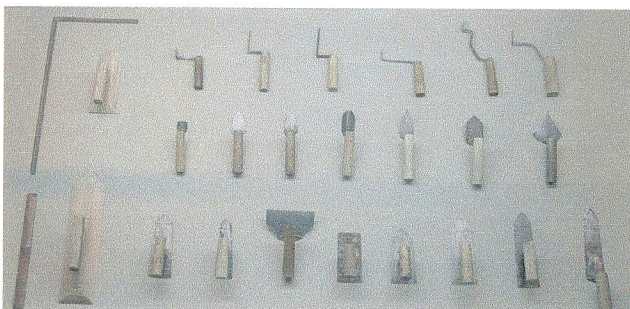
鉄瓶
（折原茂氏寄贈）

側面に寿の文字が入っているのが見えます。お祝いの席でお酒を注ぐのに使用されたものです。

みやしろの「仕事人」

資料館には、左官やこびき等のいろいろな職人が使った道具がいくつか収蔵されています。また、そうした職人の手間賃も組合で定められていたようです。

家屋などの建築についても、現在その技法や材料などは大きく変化し、職人に求められる技術も、変化してきています。



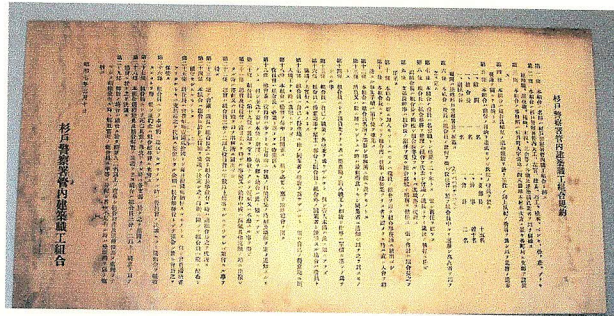
左官道具（金子和生氏寄贈）

寄贈下さった金子さんのお宅に伝わってきたきた左官道具（鏝など）の一部です。今となっては大変珍しいものもあり、伊豆にある鏝絵で有名な長八記念館にも、道具の一部を寄贈されたそうです。



消防服（田代幸一郎氏寄贈）

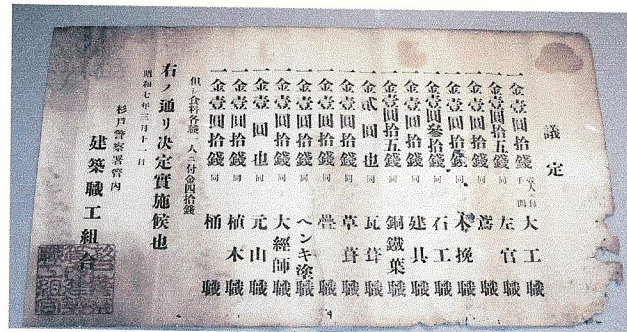
刺し子でできた消防服です。田代さんのお父様が実際に使用されていたそうです。顔と首の部分は火による影響を受けにくいように、何枚も重ねた構造になっています。



職人手間賃一覧

（小河原静穂氏寄贈）

昭和7年3月に、杉戸警察の管内で建築に携わる職工たちの手間賃の取り決めを行ったものです。



展示品リスト

（順不同・敬称略）

資 料 名	寄 贈 者	資 料 名	寄 贈 者
棹ばかり	野本惣太郎	国民服	関根 勤
ベーゴマ	森山 清	白無垢	中村 清子
葉	小河原 進	祝い樽(ツノダル)	成田 良夫
着物(男物)	小河原 進	三三九度の盃	中村 多計志
着物(女物)	金子 和生	髪飾り	渡辺 恵司
ヒノシ	矢部 豊	箱セコ	中村 忠男
炭入れアイロン	野本 伊勢松	刺し子の消防服	田代 幸一郎
電気式アイロン	白川 由利子	左官道具	金子 和生
工業用ミシン	八木橋 一郎	職人手間賃一覧	小河原 静穂
軍艦陸奥関係資料	鈴木 良作		

宮代町郷土資料館

〒345-0817 南埼玉郡宮代町字西原289

TEL 0480-34-8882 FAX 0480-32-5601

町ホームページ <http://www2.town.miyashiro.saitama.jp/>

Eメール museum@town.miyashiro.saitama.jp